２　章

ー　事業全体の目的と構成　ー

１．はじめに

平成 18 年４月から介護保険法による介護予防事業が施行され、全国各地で一般高齢者や特定高齢者、要支援者に対する介護予防事業が実施されている。介護予防事業は、「健康寿命の延伸」に向けた中間的な成果として高齢者の身体機能の向上が求められている。しかし、向上した身体機能はその後の日常生活での活動性が維持されることがなければ、再び低下していく問題も認識されている。したがって、介護保険制度の基本理念である高齢者の健康増進と在宅生活の維持を達成するためには、高齢者の機能に限局した評価にとどまらず、高齢者を地域における生活者とした心理社会科学的な側面からの評価も必要であろう。

社団法人日本理学療法士協会は国民の健康寿命の延伸に貢献するためには、高齢者の自立支援のあり方を検討する必要性があるという視点をもち、平成 17 年度から老人保健健康増進推進費等補助金事業を実施してきた。介護予防事業の評価項目は，地域や人との関係性や地域における活動範囲が重要であることを明らかにし、高齢者の介護予防効果判定（運動器の機能向上）に係る補完的な評価指標（Elderly Status Assessment Set（E-SAS と略す））を完成させた。それは、有識者の意見からだけではなく、全国規模のデータから併せて表現することに基づくものであった。

本年度（平成 20 年度）は、過去３年間の事業成果を踏まえ，地域高齢者が豊かな生活を維持していくための重要な知見を得るための調査研究を試みた。

２．過去３年間の事業成果

平成 17 年度は「予防重視型システム」へと介護保険制度が改正されることに先立ち、地域高齢者における筋力向上の意義となる上位概念を探るための調査研究事業を実施し、筋力と「生活空間」の相互関係を見いだした。

平成 18 年度は改正介護保険制度下での予防対象高齢者をサンプルとする調査研究事業を行い、E-SAS の構成要素６指標「生活空間」、「社会的ネットワーク」、「自己効力感」、「入浴動作能力」、「連続歩行距離」、「機能的移動能力」を検討した。また、事前事後アセスメントに活用できるマッピングチャートを試作し、関係者に啓発した。

平成 19 年度は「一般高齢者」、「特定高齢者」、「要支援１」、「要支援２」別に E-SAS６指標の基準的平均値を得た。また、生活空間の機能予後に対する影響の把握、マッピングチャートの利用意義、生活範囲拡大を意図した介入パターン、および使用手順等を整備した。

３．E-SAS の特徴

E-SAS は、「運動機能」に加えて「高齢者の活動的な地域生活の営み」を指向した心理社会的な概念および生活空間をとらえる実践的ツールとして構成した点を特徴とする。また、「イキイキとした地域生活」が障害予防や重度化予防のための鍵であることを、評価を受ける住民自身も認識しやすくしたことも特徴である。

それらの特徴により、以下が期待される。

①住民に対して：高齢者の「イキイキとした地域生活」の持続向上に資する

- ✓ 自らの活動性が視覚化されるので、事業参加の動機付けになる
- ✓ 活動性が変化し得ることを理解できる
- ✓ 活動的な地域生活の重要性を認識しやすくできる

②他の専門職全体に対して：高齢者の生活機能低下予防のイメージを視覚化し、多職種連携を容易にする

- ✓ 自立生活維持に関する効果をイメージ化し、共通理解が得られる
- ✓ 活動向上をめざす行動変容に向けた介入につなげやすい
- ✓ 活動的な地域生活の変化に対するデータ出力ファイルとして使える

③主たる勤務場所が病院の理学療法士に対して：高齢者の障害予防に関する理学療法士の職能的視点を明確化し、効率的な指導の普及をもたらす

- ✓ 身体機能評価を補完するマッピングチャートとして使える
- ✓ 状態を維持・向上するための実践ツールとして使える
- ✓ 効果判定作業の簡素化を図れる
- ✓ フィードバック手段として使える

４．本年度（平成 20 年度）事業の目的

1. E-SAS が「高齢者の活動的な地域生活の営みを支援するアセスメントセット」としての効果を具体的に示す。
   そのために運動器の機能向上を主とする介護予防サービス等に参加した 65 歳以上の高齢者を対象に、理学療法士を介して全国的な調査を行い、高齢者の行動変容、指導者の意識変化等を検討する。

2. E-SASを基に高齢者の活動的な地域生活の継続を支援する。
   そのために介護予防指導者（理学療法士および他職種）に対するE-SASの周知を図り、地域高齢者だけでなく指導者側にもわかりやすい意義を提案・啓発する。E-SASの利用環境の整備を積極的に行う。

５．事業の構成

Part Ⅰ　無作為化比較試験デザインを用いた E-SAS 効果の多角的検証

- 全国の介護予防指導者の理学療法士等について E-SAS 利用群、E-SAS 非利用群を対象とし、指導内容の変化の差異を明らかにする。調査は、日本理学療法士協会に所属している介護予防事業所等の理学療法士等がアンケートで回答するものである。実際の利用に関する意見を収集する。
- 介護予防事業参加者について、E-SAS 利用群、E-SAS 非利用群を対象とし、生活空間の広がりを明らかにする。調査は、日本理学療法士協会に所属している介護予防事業所の理学療法士等が介護予防事業参加者に対し面接等で実施する。
- E-SASの普及と啓発を行う。E-SASの評価手法からデータ入力や得点化するための計算方法、パソコン上でのデータ出力までにおける一連の作業の簡便化、さらには移動能力と心理社会的側面から成る「イキイキ地域生活度」の変化が示される判定シートの改訂を検討する。指導者向けのデータ出力ファイルおよびその他の成果物を日本理学療法士協会のみならず、各種団体のホームページからアクセスできるようにインターネット上で利用環境を整備する。

Part Ⅱ　昨年度（平成 19 年度）調査対象の１年後追跡

- 平成 19 年度に調査を実施した対象者において、１年後の手段的日常生活活動(instrumental activities of daily living; IADL）の状態を再調査し、IADL の低下を E-SAS の項目によって予測可能か検討する。

Part Ⅲ　E-SAS plus（仮称）に向けて

- 要介護度の高い高齢者に対する評価情報を作成する。過去３年間の事業成果から得た地域高齢者が豊かな生活を維持していくための重要な知見に基づき、実践的メリットの優れる情報を作成する。

－１章執筆担当－

金谷さとみ・原田和宏